

日本生体医工学会 平成21年度 第3回理事会 議事録

日時： 平成21年11月27日 14時～17時

場所： ガーデンパレスホテル東京 3F 平安

出席者

会長	副会長	理事										監事	幹事	支部	事務局															
楠岡	安藤	福井	生田	石原	伊関	小笠原	佐久間	佐藤	砂川	土肥	橋爪	林	堀	牧川	湊	山家	山越	菊池	山口	植野	松村	河原	伊東	田村	岩田	千原	梶谷	廣川	千田	徳山
英雄	謙二	康裕	幸士	謙	洋	康夫	一郎	正明	賢二	健純	誠	紘三郎	正一	方昭	小太郎	智之	憲一	眞	隆美	彰規	泰志	剛一	典	俊世	彰	國宏	文彦	俊二	彰一	久美子
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	×	○	○	×	×	×	○	×	×	×	×	○	○

配布資料

- 21-3-2 平成21年度第2回理事会議事録（案）
- 21-3-3 平成21年度第3回理事会入退会審査対象者
- 21-3-4 第31回第2種ME技術実力検定試験報告書
- 21-3-5-① 一般社団法人移行のための定款改定作業に関する中間報告
- 21-3-5-② 会員登録情報の再調査等について
- 21-3-6-① 平成21年度各賞応募状況
- 21-3-6-② 平成21年度選奨委員会
- 21-3-7 平成22・23年度理事・監事候補者推薦結果（平成21年11月13日開票）
- 21-3-8-② 「日本生体医工学会雑誌」全巻全号電子アーカイブ化に伴う著作権委譲に関する告知（お願い）
- 21-3-8-③ 「生体医工学」投稿規定
- 21-3-9-① ベストリサーチアワードについて
- 21-3-9-② 日本生体医工学会（旧日本エム・イー学会）甲信越支部規約 改訂案
- 21-3-10 日本生体医工学会 旅費規程について（比較表）
- 21-3-11 第48回日本生体医工学会大会報告
- 21-3-12 第49回日本生体医工学会大会 募集案内
- 21-3-15-① 日本医学会に関するアンケート（回答）
- 21-3-16 国際委員会報告
- 21-3-17 生体医工学フォーラムの開催について

議事

1. 理事会成立の件（総務 湊）

定款に定める要件を満たしている（理事出席 16 名／18 名）ことを確認して理事会成立を宣言した。

2. 前回議事録承認の件（審 総務 湊 資料 21-3-2）

前回議事録について修正等があれば事務局に連絡することとした。

3. 入退会（審・回覧 会員 資料 21-3-3）

入会：正会員 7 名

会員資格等変更：準会員（準→正） 4 名

退会：正会員 31 名 準会員 7 名

全入退会、資格変更が承認された。

この結果、現況は正会員（国内）2,297 名、正会員（海外）42 名、準会員（国内）369 名、準会員（海外）0 名、維持会員 16 社 24 口 顧問 3 名、名誉会員 56 名となることを確認した。

4. 第 31 回第 2 種 ME 技術実力検定試験実施結果の報告および合格者の認定の件

（報・審 ME 技術教育 石原 資料 21-3-4）

- 定試験実施結果の概要が報告された。
 - 受験者数 4,750 名、合格者数 1,505 名、合格率 31.7%
 - 合格点についてはメール審議により承認が得られている
 - 理事 18 名中 16 名異議なし
- 合格者について承認された。

5-①. 定款改定 WG 作業中間報告（審 総務 湊 資料 21-3-5-①）

- 第 21 条～第 23 条に修正がある。
- 理事・監事に定年制を導入している。
 - 名誉会員の取り扱いについて、定款に記載する必要があるか不明
 - 正会員に定年を設けるのは問題がある
 - 代議員の定年制も法的な見地から問題あり
 - 代議員の定年制は総務省の審査を通るかも疑問
- 関連して以下の意見が述べられた。
 - 代議員選挙では、最後の数票で代議員数が大幅に増加する恐れがある（小笠原）
 - 獲得票数が同点の場合、会員承認順ということになっている（湊）
- 今後の予定は以下の通りとする。
 - 12 月末まで意見集約
 - 内閣府の相談窓口相談する（定年、定款、選挙規程）

- 1月の理事会に諮り、ホームページに掲載する
- 3月に最終案をまとめる
- 6月の総会にかける

5-②. 会員登録情報再調査の報告（審 総務 湊 資料 21-3-5-②）

- 再調査の結果が報告された。
- 送付数 2,483, 回答数 1,196, 回答率 48.2%
 - Web を見ただけの場合は、回答数に算入していない
- 住所確定 2,480 名、不明 266 名
- 医療系国家資格 有り 313 名、無し 460 名
- 学位 有り 518 名、無し 41 名
 - 博士（医工学）の学位保有者 1 名（平成 20 年に初）
 - 平成 22 年には博士（生命医科学）が出る予定

6-①. 平成 21 年度各賞応募状況の件（報・審 選奨 橋爪・事務局 資料 21-3-6-①）

- 11 月 27 日時点での各賞の応募状況が報告された。
- 論文賞 4 件、研究奨励賞 17 件、新技術開発賞 0 件、荻野賞 0 件
- 〆切は 12 月 22 日

6-②. 平成 21 年度選奨各賞選定委員会委員案の件

（報・審 選奨 橋爪・事務局 資料 21-3-6-②）

- 未確定だった荻野賞選定委員会委員が提案され、承認された。
- 科学新聞賞・研究奨励賞・阪本研究刊行助成賞・阿部賞選定委員会委員の編集委員長名を田村俊世 氏に修正した。
- 平成 21 年度選奨各賞選定委員会委員案が承認された。

7. 理事・監事候補者推薦結果および今後の選挙日程の件

（報・審 選挙管理 小笠原 資料 21-3-7）

- 平成 22・23 年度理事・監事候補推薦結果が報告された。
- 発送数 182 通、返送数 91 通、有効用紙数 87 通、無効用紙数 4 通
- 候補者名簿が承認された。
 - 今回は仕方ない面もあるが、選挙管理委員長が候補者となるのは問題となるのではないか
 - 新規程では、改選されない監事が選挙管理委員長になる
- 正会員宛に送付した投票用紙の〆切を、「消印有効」ではなく「必着」とする案が了承された。

- 到着した投票用紙の中に消印がないものが含まれており、昨年の開票作業に支障が出た
- 「必着」となった件を別途紙に明記し、投票用紙と共に同封することとした。

8-①. journal@rchive 正式決定に伴う作業について (報 編集 田村)

- JST から電子アーカイブ化の正式決定通知が届いた。
- 保管に伴う作業について説明があった。
 - 全部電子化する
 - 古いものは画像として取り込む
 - 青柳氏の論文は引用される可能性が高いことからテキストとして文字に起こす

8-②. 著作権の譲渡 本誌ならびにホームページで依頼

(報 編集 田村 資料 21-3-8-②)

- 経緯の説明があった。
 - 電子アーカイブ化に伴い、論文の著作権すべてが本会に帰属している必要がある
 - 投稿規定内に著作権規程を定める以前に掲載された論文などにおいて、著作権の委譲が明確にされていない
- 本誌ならびにホームページに告知し、申し出がない場合は期日 (2010 年 3 月 31 日) をもって著作権を本会の帰属とする案が提案された。
- 上記の提案ならびに告知文の掲載と公開が承認された。
 - 告知文の誤字を訂正する
- 著作物利用の許可申請を Web 上などで簡便に行えるよう検討することとした。
- その他、「文化系学会のように著作権を個人に分割してはどうか」との意見もあった。

8-③. 2重投稿防止に伴う執筆要項の改訂 (審 編集 田村 資料 21-3-8-③)

- 二重投稿の概念を明確にするため、投稿規定の文言を訂正する案が承認された。
 - 「他に未発表の原著論文」 → 「他に未投稿の原著論文」
 - 日本語論文を英訳した論文も二重投稿の対象になるか
 - ほとんどの雑誌は「any language」との記載があり対象となる
- 投稿規定の「日本語に書かれたものに限り」の文言について、編集員会にて見直すこととした。
 - 韓国・中国のME分野が成熟してきたことから、英文誌 (Frontiers of Medical and Biological Engineering) について、砂川理事の指摘を視野に再考してはどうか

8-④. JST への学会誌 upload について (審 編集 田村)

- 学会誌の upload の問題点について説明があった。
 - 現在は、直近の巻まで公開（アップロード）している
 - 会員のメリットが損なわれている恐れがある
 - 会員数の低下が懸念される
- 関連して、以下の意見が出された。
 - 最初の 6 ヶ月間は課金してはどうか
 - 公開するがダウンロードを制限してはどうか
- まずは現状を維持しつつ、上記の意見を踏まえ JST と相談することとした。

9-①. 2009 生体医工学シンポジウム方向（審 支部 田村 資料 21-3-9-①）

- シンポジウムの報告があった。
 - 前回大会の際に、理事会に報告し議事録に残すことが決定した
- 参加者 324 名、発表 167 件、投稿 90 件
- ベストリサーチアワードは以下の 4 件であった。
 - 1-1-07 変性軟骨における力学・材料特性の機能領域別評価（大澤恭子¹⁾、松本健志¹⁾、内藤尚¹⁾、田中正夫¹⁾、1)大阪大学大学院基礎工学研究科）
 - 2-2-10 ポリジメチルシロキサン隔膜を介した水分・ガス交換による微小流体細胞培養デバイスのオンチップ CO₂ インキュベーション（高野温¹⁾、宮下三佳²⁾、田中真人¹⁾²⁾、二井行信²⁾、1)東京電機大学理工学部、2)東京電機大学フロンティア共同研究センター）
 - 1-1-09 光転換型蛍光タンパク質を用いた血管内皮細胞の微小管構造の可視化（川崎那緒人¹⁾、長崎晃³⁾、齋藤知行²⁾、野口拓哉²⁾、工藤奨²⁾、1)芝浦工業大学大学院工学研究科、2)芝浦工業大学工学部、3)独立行政法人産業技術総合研究所セルエンジニアリング研究部門生体運動研究グループ）
 - 4-1-01 鼓膜振動の光学的計測による骨導超音波知覚の推定（伊藤一仁¹⁾、中川誠司¹⁾、1)独立行政法人産業技術総合研究所人間福祉工学研究部門）
- ベストリサーチアワード受賞者が会員でなくても良いのかについて、今後検討することとした。

9-②. 甲信越支部規程について（審 支部 事務局 資料 21-3-9-②）

- 事務局から規程改定についての説明があった。
- 第 3 条の文言「支部の事務所は教室内におく」について、訂正を検討してもらうよう事務局から支部に連絡することとした。

10. 旅費規程について（報・審 規約 石原・山越 資料 21-3-10）

- 比較表に基づき、旅費規程の改訂案が説明された。

- ME 技術教育委員会の旅費規程も本会と同一とする
- 同時に、委員の負担に配慮し、試験委員会・作問委員会の謝金規程を整備する
- 公認会計士の助言に従い、証憑ベースとする
- 鉄道・バスは領収書不要
- 航空運賃のみ半券のコピー（スキャン）し、メールで事務局に連絡する
- 議論の結果以下の方針を決定した。
 - グリーン席の費用は認めない
 - ビジネスクラスの費用は認めない
 - 改定後の規程は平成 22 年 4 月 1 日から適用する
 - 1 月、3 月の理事会は従来の規程に則る
- 本日の討議結果を基に石原理事が技術委員と相談し規程案をまとめることとした。

11. 開催報告と決算報告（報・審 第 48 回大会 福井 資料 21-3-11）

- 第 48 回大会の開催結果が報告された。
 - 演題数：企画演題 150 題、一般演題 523 題、計 673 題
 - 参加人数：会員 417 名、非会員 289 名、学生 405 名、計 1,111 名
 - 懇親会：252 名
 - 高校生科学コンテストについては次回検討の余地あり
 - ◇ マンネリ化、旅費 55 万、賞金 22 万
- 第 48 回大会の収支決算が報告され、承認された。
 - 収入 19,699,025 円、支出 19,699,025 円
 - 45 万円ほど赤字がでたため、学会補助金 150 万円の返金が 105 万円となった。

12. 準備状況報告（報 第 49 回大会 千田 資料 21-3-12）

- 第 49 回大会の準備状況が報告された。
 - 会期：2010 年 6 月 25 日（金）～27 日（日）
 - 会場：大阪国際交流センター
 - メインテーマ：Revolution ME
 - 演題募集：2009 年 12 月 23 日（水）～2010 年 2 月 3 日（水）
 - 研究会へ OS は募集しない
 - 代議員に OS 提案を依頼
- 英語化の奨励について議論した。
 - 抄録は日本語も可とする
 - 抄録の演題、キーワードは英語必須とする
 - Proceeding は英語とする
 - アジア圏の研究者に声を掛け、まとまった所を English セッションとする

- まとまらなかった場合は、日本語も混在させる
- English セッションから論文誌に特集号を組んではどうか
- 広報について
 - 英語版の大会ホームページを作成する
 - 学会ホームページも英語版作成を今後検討する
 - Proceeding は大会終了から 3 ヶ月後に Web で公開する
 - ◇ 抄録集は J-Stage で第 47 回大会までは閲覧できる
 - ◇ 47 回大会の Proceedings が Web で閲覧できるのはアーカイブとは無関係
- Proceedings は USB またはマイクロ SD での配布も検討している。

13. 第 50 回大会について (報・審 土肥 資料 21-3-13)

- 第 50 回大会の準備状況が報告された。
 - 会期：2011 年 4 月 29 日 (金) ～5 月 1 日 (日)
 - 懇親会：如水会館
 - 高校生科学コンテスト：やらない方向もあり得る
 - 英語セッション：第 49 回大会を参考に検討する

14. 第 51 回大会について (報・審 楠岡)

- 3 月の理事会にて新理事・新会長が決まる際に、大会長を提案して貰いたい。

15-①. 日本医学会に関するアンケート (資料 21-3-15-①)

- 楠岡会長より標記のアンケート調査の背景説明があった。
- 回答した内容について説明があり、事後承認が得られた。
 - 新規加盟学会の審査方式：本会は医師が 1/3 で工科系研究者が 2/3 であること、また、コメディカルとの連携も重要であることから、医師の割合などでの制約を課すべきでないという回答した
 - 加盟後の再審査：古くても活動の低い学会もあることから、更新に評価が必要であると回答した
 - 日本医学総会：規模が大きくなり予算の負担が増加していることから、簡素化が必要であると回答した
 - その他：日本医学会を日本医師会から分離独立させる場合、専門医制度と認定について検討すべきと回答した

15-②. 支部のメール発送について

- 事務局から経緯説明があった。
 - メール発送の費用を本部事務が負担している

- 支部間の利用度に差がある
- 基準を作る必要があるか
- 関西支部、北陸支部の利用頻度が比較的多い
- 支部長宛の文案を事務局が作成し、例示することとした。
- メール情報は本部のみが握っており、支部総会や研究会の案内を本部が行うのは当然

15-③. 協賛等の状況（資料回覧）

- 資料を回覧し承認された。

15-④. その他

- 宇都宮敏男先生が逝去されたことから、学会より弔電を送ることとした。
 - 葬儀は家族のみで行う
 - 日程等が分かり次第事務局に連絡する（土肥）
- PMDA をどう支援するかについて検討した。
 - 学会個別にではなく、他学会（例えば超音波医学会、臨床薬理学会、人工臓器学会など）と協力してはどうか
 - 医療機器開発に関係する学会に、本会から声を掛けて組織化してはどうか
 - 会員外でも参加できる専門別研究会で立ち上げてはどうか
 - ものづくりコモンズの目指すところも同じである
 - 日本医学会の会員である利点は、外保連や内保連を通じて治験に関して提言できる点にあることから、積極的に活用すべきである

16. 国際委員会報告（佐久間 資料 21-3-16）

- IFMBE Pacific Working Group 活動について報告があった。
 - 佐久間理事が chair を担当することとなった
 - WC2012 での Young Investigator Travel Fellowship について検討を開始した
- WC2009 での Young Investigator Travel Fellowship について報告があった。
 - 学会員への周知が十分でなく、応募が少なかった
 - IEEE EMBC と日程が連続していたため、長期出張可能な若手研究者が少なかった可能性もある
 - IFMBE 内では活動が高く評価されている
- 3年後に向けて Young Investigator Travel Fellowship の積み立てを継続することが承認された。
 - なぜ韓国訪問が無くなったのか調べて欲しい
 - 参加者に、学会誌に報告をして貰ってはどうか

- WC2009 の会議報告も会誌に載せる必要がある
- Clinical Engineering Education and Certification に関する会議の案内があった。
 - IFMBE の資金的な支援を一部受けている
 - 日時：2010 年 1 月 12 日
 - 場所：Ho Chi Min City、 Vietnam
 - 内容：Clinical Engineering に関するシンポジウム
 - 講師：Dr. Albert Poon 氏ほか、検討中
- IFMBE 理事選挙について報告があった。
 - アジアから 3 名も立候補があった
 - アジア内での事前調整がなかったため、3 名とも選出されなかった
 - 次回の WC2012 は北京開催であるが、理事にアジア人がいないため不安あり
 - WC2012 は 5 月頃に開催予定で、IEEE EMBC（8 月頃？）と時期をずらす
 - 今後は戦略を練る必要がある

17. 生体医工学フォーラムの開催について

- 生体医工学フォーラムの開催案内があった。
 - 日程：平成 22 年 3 月 3 日（水）
 - 時間：10 時～17 時 30 分（予定）
 - 会場：日本学術会議講堂
 - 運営：自分たちで行う必要がある
- 取り上げる課題については、生体医工学研究所設立委員会委員で検討する。